



地球の木へのプレゼントの絵を描いてくれたインドラサロワールの子どもたち（ネパール）

Annual  
Report  
2023

特定非営利活動法人

地球の木

2023年度年次報告書

( 2023/4/1 ~ 2024/3/31 )



## 地球の木が目指す社会(ビジョン)

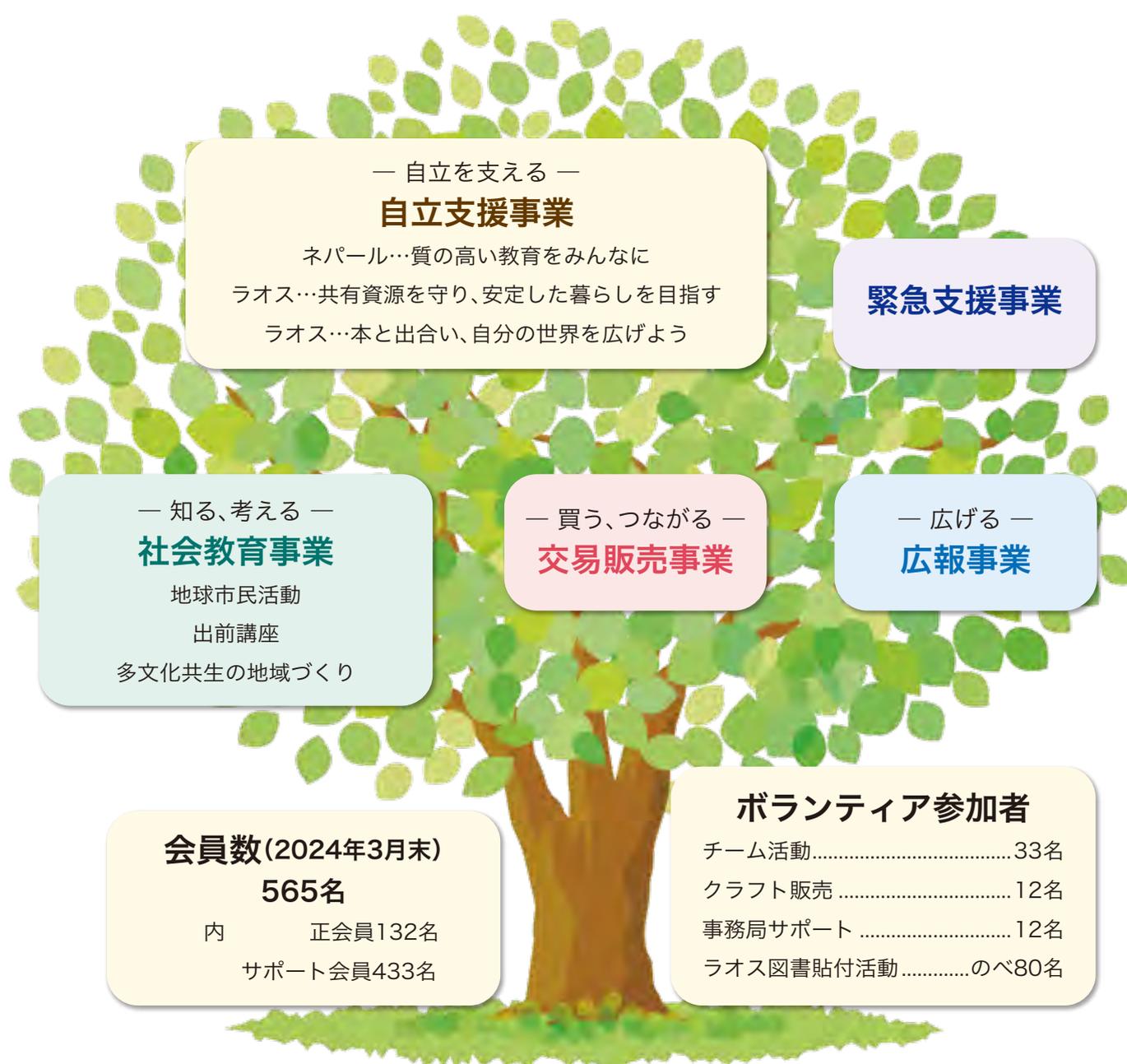
地球上すべての人々が、自然と共存し、一人ひとりの人格や固有の文化を尊重し、人が人らしくあたりまえに生きていくために、互いに助け合う社会をめざします。

## 地球の木の使命(ミッション)

地球の木は、主にアジアの国々で、社会的に弱い立場におかれた人たちが、自らの権利を知り、未来を自分たちの力で切り開いていけるように、教育や地域づくりのあり方を共に考え、対等な立場に必要な支援をおこないます。

同時に私たちは、国内においても、多様な人々や市民団体と連携し、真の豊かさを育む教育活動や多文化共生の社会づくりに携わります。

## 地球の木の活動



## 2023年度事業の概要

自立支援事業については、第一に、ネパールのインドラサロワール地域において、教育に重点を置いた地域づくりが3年目を迎え、プログラムが根付き、成績の向上という形で成果があらわれています。第二に、ラオス、セコン県で「共有資源を守り、村人の安定した暮らしをめざす」支援を行いました。第三に、絵本や図書館を通じた子どもの教育向上プログラムでは『リズムでまなぶラオス語』の再販支援を行いました。また国内で行っているラオス語翻訳貼付活動では、200冊ほどの絵本が集まり、多くのボランティアの参加がありました。

社会教育事業については、地球の木講座で森林と人間の共生を、また横浜市内の森での学習会で身近な森林の課題を考えました。

広報事業では、初めて年次報告書を制作するとともに、2024年度のホームページ全面改訂に向けて、準備を進めました。

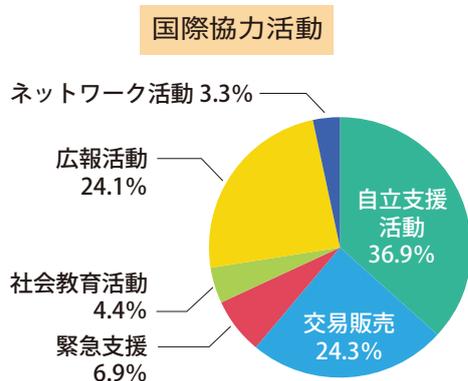


多文化共生の地域づくり  
(あーすフェスタかながわ2023)

## 2023年度の収支報告

総収入	7,440,695円
内容	金額
会費	3,055,500円
ご寄付	2,360,801円
物品のご寄付	633,911円
収益事業収入 ※1	1,355,345円
その他 ※2	35,138円
合計	7,440,695円

総支出	10,429,941円
内容	金額
国際協力活動	7,361,250円
管理運営	3,068,691円
合計	10,429,941円
国際協力活動	7,361,250円
内容	金額
自立支援活動	2,718,420円
交易販売	1,788,168円
緊急支援	506,480円
社会教育活動	326,750円
広報活動	1,776,087円
ネットワーク活動	245,345円
合計	7,361,250円



※1 クラフト販売、出前講座などの収入

※2 会費引落手数料、利息などの収入

より詳しい決算資料はホームページで公開しています。



マハチュニ中学校の生徒たち  
と校舎裏の崖の前で

# ネ パ ー ル



## 質の高い教育で行動する若者を育てる

現地パートナーNGO：

### SAGUN

土地の文化や伝統を尊重しつつ、人々の持つ潜在能力を引き出すような住民主体の開発をめざす専門家からなるNGO

人口約3000万人のうち600万人が海外に出稼ぎに行っているネパール。支援地インドラサロワール(以下IRM)も例外ではありません。学校は小中高あわせて21校あり、学校に通う子どもは増えていますが、教員の定着率が低く、保護者の関心も低い。ドロップアウトする子どもが多くいます。卒業しても就職できない。うつ病や自殺者も出ています。よりよい学校を求めてカトマンズへ子どもを送る家族。学校の統廃合。問題は山積です。

地球の木とSAGUNは、ロシ地域での15年にわたる「幸せ分かち合いムーブメント」の成功事例に倣い、昨年度から教育に特化したプログラムを、初めの一步からIRMの地方政府と協働して始め、3年目を迎えました。

### — SAGUNのやり方を真似るといいよ！ —

SAGUNは、前の支援地マンガルタールのことも忘れてはいません。コミュニティに招かれてラジャバス地区のヤギ飼育グループのミーティングに参加してきたという報告がありました。地球の木が支援したほとんどのヤギ飼育農家が今も満足のいく利益を上げているそうです。支援が終わった今でもなお、マンガルタールの人々はSAGUNと地球の木のことを覚えていてくれます。私たちがマンガルタールを去った後、新しく地域に入ったNGOに「SAGUNのやり方を真似るといいよ」とアドバイスしたヤギ飼育農家の人々。ヒマラヤを背景に丘の上で語り合った、元気な女性たちが思い出されます。



ヤギのおかげで暮らしが豊かになりました！

## 活動概要

地球の木とSAGUNは、地域のニーズに応え、人材育成にフォーカスした支援を行っています。2023年度は教師トレーニングに力を入れ、主に、科学や数学を子どもたちに分かりやすく教える授業法や、子どもたちの心の問題と向き合うためのカウンセリングの研修をしました。

生徒たちの科学の成績が悪く、殆どの生徒が落第点を取っていることは、地域の悩みの種でした。SAGUNは、専門家の協力を得て、2校で40~45種類の実験や模型作りを取り入れたモデル授業を実施し、最終日に授業で学んだことを生徒たちが発表する「サイエンス・エキシビション」を実施しました。生徒たちは、科学が思ったよりも面白い科目であることに気づき、教師にとっても学びの多い機会となりました。

また、算数の授業はこれまで、先生が一方向的に説明するだけの授業でしたが、生徒たちが三角定規を使って黒板に二等辺三角形を描いたり、三角形の内角の和を分度器で測ったりなど、実践的な教え方を伝えました。

### ■国内活動

- 2024年2月、チームより2名がネパールを訪問し、IRMにおけるモニタリング調査を実施しました。IRMの教員や生徒たち、地方行政官たちと話すことで、交流が実現しただけでなく、SAGUNによるプログラムの成果についても実感することができました。さらに、SAGUNの理事会に参加し交流することで、パートナー団体の魅力についてより深く理解することができ、組織同士の信頼関係を深めることができました。
- 2022年度に実施した現地調査の報告会(5月)を行い、調査報告書などで活動を共有しました。
- 地方情報誌口シラハールを読む会を開催し、現地の状況への理解を深めることができました。

## 活動地で生まれた変化

授業が画期的に変わり、生徒たちの理解力が高まることにより、マハチュニ中等学校では、生徒たちの試験の成績が飛躍的に上がりました。同校の生徒たちは、IRMのサイエンス・エキシビションに出場して優勝。郡の大会に進出して2位を獲得しました。他の生徒たち、教師、保護者やその他の関係者も大いに刺激を受け、IRMの他の学校から「うちの学校でもやってほしい」という依頼が殺到。「質の高い教育」をIRMに広げるきっかけをつくることができました。

数学についても、専門家による「数学のモデル授業」が実践的で分かりやすく、参加した教師たちの数学の授業方法が大きく変わり、生徒たちに好評を得ています。

「質の高い教育」を実現するという目的に向かって、学校、地方政府が一体となって協働したことで、共通の課題を認識し、同じ地域の教育レベルを引き上げようという団結力が生まれたことは喜ばしいと思います。



サイエンス・エキシビションで優勝した作品を説明する生徒たち



水力発電の仕組みを模型に



分度器で角度を測ろう



小学校を訪れた磯野さん(中央)とディリップさん(左)



魚保護地区沿いに看板を設置する様子

# ラオス



## 共有資源を守り、安定した暮らしを目指す

現地パートナーNGO：  
**NPO法人 日本国際ボランティアセンター (JVC)**

1980年の設立以来、アジア、アフリカ、中東で、上下や貧富を作る社会構造そのものを変えるため、現地の人と共に活動している。

地球の木は、JVCがラオスの農村で行っている「自然資源を保全し、住民主権を尊重した活動」を支援しています。その根本にある「資源を奪い合うのではなく分かち合う」という理念に共鳴するからです。私たちは、JVCラオスの現地活動を知り、それを伝えると共に、ラオスの農村の暮らしから見える課題を広く発信します。そして、地球市民として自然という共有財産(コモンズ)をどのように守っていけばいいのか、我々の暮らしのあり方とつなげて考えていく活動をしています。

(写真はJVC提供)



### —— 不安で夜も眠れない ——

ラオスで広がり続けるプランテーション。セコン県でも、かつては村人が生活に必要な食料や林産物を採っていた森が切り拓かれ、企業が利益を得るためのプランテーションが近年急速に増えています。そしてそこでは、長時間・低賃金の過酷な労働環境下で村人が働いています。JVCの活動村の中には、自分たちの農地の約3分2がゴムプランテーションになり、森や川などの自然資源もほとんど残っていないという村があります。「村の将来を考えると、不安で夜も眠れない」そう話す村長の疲れ切った顔が忘れられません。お金で何でも手に入る今の時代。しかしその裏にはラオスの村人のように、資源を失い、労働力搾取などのしわ寄せを受けている人々がいるのです。「安さ」「便利さ」を求める私たちの行動が社会に、人々にどんな影響を与えるのか、立ち止まって考えてみませんか。

(JVCラオス事業担当 後藤 美紀)



JVCの活動村に広がる大規模ゴムプランテーション



ゴムプランテーションで働く村人

## JVCラオスの現地活動

人口の6割以上が、農村部で自然に依拠した自給的な暮らしを営むラオス。活動地のセコン県は最貧困県の一つであり、自然が豊かに残る一方、近年は水力発電や企業による大規模プランテーションなどの開発事業が進んでいます。また目の前の生活の必要から、住民がキャッサバやコーヒーなどの換金作物を栽培することで、いつの間にか共有の森や土地を失うなどの問題を抱えています。JVCは、セコン県の10村を対象に、住民が暮らしの基盤である共有資源を外部者から守り持続的に管理し利用していけるよう、その仕組み作りなどに村人と共に取り組んでいます。

### ■自分たちの村を知り、共有資源の価値を確認し合う

村人と共に基礎情報(人口・歴史・生産物・村境など)および直面している開発問題についての情報を収集し、4村で冊子や資料としてまとめ共有しました。この過程で話し合いを行い、共有資源が食料や収入の源として価値を持っていること、またそれが減少していることを村人と共に確認しました。

### ■共有資源を持続的に管理し利用するための仕組み作り

2村で魚保護地区を導入。そのためのルール作りや、地図作成などの専門的な技術支援を行い、村内外の人々にその内容が十分に周知されるよう看板を設置し、行政官を交えた式典も行いました。村人からは、魚保護地区の設置後、魚の量が増えているとの声が聞かれました。4村では農業や化学肥料などによる環境への負荷や地質劣化の減少・防止を推進するグループを作りました。土壌改良のために、キャッサバとマメ科農作物(落花生や大豆)の混作を始めたり、自然農業についての技術研修を行いました。村人の関心は高く、意識の変化が生まれています。

### ■自然資源に対する住民の権利について学ぶ法律研修

4村で、村が直面している開発問題の対処法を学ぶ村人向けの研修を、法律カレンダーを活用して行いました。新しい試みとして、事例をドラマ仕立ての映像にして見せることを始め、村人の研修に役立っています。

### ■提言活動

共有資源管理などの良い実践例を関係行政機関に共有することで、政策や制度の改善を図ったり、行き過ぎた開発事業が確認された場合には、事業者や関係行政機関に対して改善を求めるなどをしました。

## 地球の木の活動(国内)

- JVCラオス現地駐在員の山室良平さんによる一時帰国報告会をオンラインで実施した(7月)。
- JVCラオス事業担当の後藤美紀さんから、中間評価及びモニタリングのための現地訪問の報告を受けた(2月)。
- JVCラオスの現地活動からの学びを、地球の木講座(9月)、森を学ぶ学習会(2月)につなげた。



できあがった村の地図



魚保護地区の設置式典



土壌劣化防止のための堆肥をつくる村人たち



法律研修のビデオを見る村人たち



ヴィエンチャンの図書室で  
本を読む子どもたち  
(写真提供：ALC)

# ラ オ ス



## 本と出会い、自分の世界を広げよう！

現地パートナーNGO：

**NPO法人**

**ラオスのこども (ALC)**

公正で平和な社会づくりに貢献することを目的とし、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、読書に親しむ環境をつくる活動をしています。

ラオスでは図書館や本屋が身近にありません。ラオス語の本自体もとても少なく、本に触れる機会が限定されています。学校教育は公用語のラオス語で行われるため、学年末に進級試験が行われるラオスでは、学習言語であるラオス語の習得が学校での勉強の継続に直結しています。また、ラオスは約50の民族が暮らす多民族国家で、とりわけ、このような少数民族の子どもたちは母語でないラオス語で授業を受けなくてはならず、高い退学率に繋がっています。

このプログラムではラオスの図書館環境の向上を通して、ラオスの子どもたちがラオス語を習得し、「本に親しみ、読書を通じて自ら学習する力をつけ、未来を選択していくことができるようになること」を目指します。

### —— 森から生まれた『モンの民話』を今、出版した理由 ——

2023年5月に『モンの民話』をラオスで出版しました。コロナ禍後に、いまこそ残しておきたいとまとめたのです。

ラオスは森の国でした。根っこを張り続けてきた木々、植物…森に住み続けてきた森の生き物たち。森の中を自分の場所として暮らしてきた精霊、妖怪など、科学的にはその存在を証明できない者達も住んでいます。それらの存在を偏見もなく生き生きと語り継がれてきたものが民話です。私たちの世界というのは、人間の目に見える世界だけでないということを教えてくれるのです。人間は、後から森に入ってきました。そして、うんと森の恵みを受けました。でも今、ラオスでも、森が少なくなってきています。森を切り裂く道路、鉄道線路が建設され開発が勢いを増しています。今、うっかりすると私たちは、人間が唯一の地球の主で、あらゆる困難に打ち勝って…と思いがちです。それは、正しい姿勢なのでしょうか？これからのあり方も含めて、相手を認め共存の形を見つけていくことを考えるきっかけを与えられているのではないのでしょうか？森の中で生まれた物語に、もう一度、耳を傾けてもいいのではないのでしょうか？

(ラオス在住の図書館活動家 安井 清子)



安井清子さん

図書館活動家・絵本作家・モン族民話研究者・ラオス山の子ども文庫基金代表

## 活動概要

### ■現地活動

#### 『リズムで学ぶラオス語』の再版を支援

読み書きなどの習得率が低いラオスの子どもたちが、楽しみながらラオス語を学ぶ手助けとなるように、NPO法人ラオスのこども(以下ALC)は、ラオス語教本『Kapkon Sonkham リズムでまなぶラオス語』4,500冊を再版し、そのうちの2,200冊の費用を地球の木が支援しました。

#### どんな絵本？

『リズムで学ぶラオス語』は、「ラオス文学の父」といわれラオス語研究の第一人者であるマハー・シラー・ヴィラヴォンが編纂した、かつての小学校の教科書を再編集・改訂したものです。この本では、ラオス語の子音や母音をイラスト付きの単語を例に分かりやすく学べるようになっています。韻を踏んだ詩をリズムに合わせて唄いながら朗読することで、楽しく自然とラオス語が身につきます。

#### どのように活用するの？

再版にあたりALCは、より多くの教育現場で活用してもらえるよう、この本を教育科学研究所(ラオス教育スポーツ省管轄の研究機関)のリストに登録しました。また、完成した本は、ALCが実施しているJICA草の根事業を通じた教育改善事業の対象校に配布されるとともに、ALCの学校図書室へ届け、主にラオス語の授業や図書室活動(レクリエーション)の一環で使用されます。

### ■国内活動

2022年度に引き続き、日本の絵本にラオス語を貼付し、ラオスの図書館に設置する活動を行ったほか、ラオスのこどもたちの絵本を取り巻く環境を知るため、安井清子さんによるお話会「本とラオスのこどもたち」を行いました。

#### 日本の絵本にラオス語訳を貼り付ける

2023年度は、「低学年の子どもたちが読みやすい」ことを基準として、ALCより提供された絵本リストから6冊を選定し、寄付を呼び掛けました。2022年度を上回る192冊の絵本が集まりました。貼付ボランティア活動は地球の木主催で12回行ったほか、逗子市のフリースクール「ここだね」、明治学院大学での出張貼付も行いました。

#### 安井清子さんお話会(12/10)

安井清子さんお話会「本とラオスのこどもたち」を開催しました。安井さんは、タイの難民キャンプに「おはなしキャラバン」として赴任後、ラオス国内でも30年以上図書館活動を続けてきました。特に、文字を持たないモン族と深く関わり、モン族に伝わる民話を録音収集する中で、現代人が忘れてはいけない大切なことが盛り込まれた民話を、絵本としてラオス・日本両国で出版をしています(コラム参照)。また、ラオス国内に3つの図書館を設立し、現地の子どもたち、村人と共に本の魅力を伝える活動を続けています。また、昨今のスマホ、テレビがある時代に、図書館や絵本を通して何ができるのかを考えながら取り組まれている小学校での読み聞かせキャラバンなどを話されました。



ラオス語教本『リズムでまなぶラオス語』



本の詩を手拍子や楽器のリズムに合わせて詠唱する(ヴィエンチャン県サナカム中等学校)



フリースクール「ここだね」での出張貼付



ラオス小学校での読み聞かせキャラバン

# 地球市民活動

JVCラオスプロジェクトが提唱する「奪わない暮らし／奪われない暮らし」を受けて、地球の木講座では、人と森との関係や自然との共生についてお話を聞き、新治の森での学習会では、身近な森と私たちとのつながりを知り考えました。

## ■地球の木講座(9/30)

「内山節さんと考える森と共にある社会」～私たちと森との新しい関係づくり～

講師：内山節さん

(哲学者、NPO法人森づくりフォーラム代表理事。存在論、労働論、自然哲学などにおいて、独自の思想を展開する)

地球の木は、経済開発による脅威を受けつつも森林と共にある暮らしを守り続けるラオスの村人たちから、自然への畏敬や心豊かに暮らすことを学んできました。森は地球の共有財産です。長年、森林と人間の共生のあり方を問い続けてこられた内山さんから、自然や森の多様性、自然と人間との関係という、世界に共通する根本的な大切な話を聞くことができました。



グループに分かれてそれぞれの自然とのかかわりを話す



内山 節さん

### ～内山節さんのお話から～

#### ●「自然の違いが人間の基本的な考え方を作る」

和辻哲郎さんの「世界は草原、砂漠、モンスーンの3つの地帯に分けられ、その自然の違いが人間の基本的な考え方に変化を与えた」を引きながら、砂漠地帯の自然はとても厳しく残酷でもあり、人間中心、部族中心にならざるを得ない。対してヨーロッパ的世界では、日本に比べると自然の力、成長の力が弱い、そういう場所では、人間が弱い自然を守って保護しなければならない。一方東アジアのモンスーン地帯では人間は自然には敵わないという気持ちを持ちながら生きている。

#### ●「着地点はその地域が見つめていくしかない」

自然というものが様々に展開するにも関わらず、自然をこのように管理するのが正しいというような秩序の理論を作り上げてはいけない。秩序の思想ではなくその地域の思想でなければいけない。森と人間の関係に、世界を覆うような理想の関係はなく、その地域に適した関係がある。

## ■森を学ぶ学習会(2/23)

横浜市緑区は市内で一番の緑被率。その中でも里山の風景が色濃く残る新治市民の森で学習会を行いました。あいにくの天候で、森歩きは少ししかできませんでしたが、新治里山「和」を広げる会の吉武美保子さんを講師に、たくさんのお話を聞きました。木のこと、土のこと、森の成り立ち。そこに生きる生物全般について。また、楽しみながら森の保全に関わっているたくさんの市民グループの人たちがいることも知りました。都市の中の身近な自然をどう守っていくのか。地球の木が支援するラオスの村の森林保全活動についても伝えながら、日本の森について考える一歩となりました。



旧奥津邸で里山の話聞く

## ■SDGs多文化共生CITYフォーラム(2/17)

会場は、日本丸メモリアルパーク訓練センター。地球の木はSDGsの視点から地球の木の自立支援及び多文化共生の活動を紹介しました。

## ■地域イベント

以下のイベントに参加しました。

- ・国際交流ラウンジイベント「多文化フェア@なかやま」(10/1)
- ・オルタ館フェスタ(11/4)
- ・鎌倉国際交流フェスティバル(11/5)
- ・東日本大震災復興まつり(11/18)
- ・ひらつか市民活動センターまつり(11/26)



東日本大震災復興まつり

# 出前講座

各出前講座の対応を行いながら、d-lab(開発教育全国研究集会8/11~12)などに参加し、講師のスキルアップに努めるとともに、より魅力的な地球の木ならではのオリジナルの教材となるよう検討しました。

## ■学校や地域での出前講座

以下の出前講座を実施しました。

- ・鎌倉女学院高等学校(6/10).....「ネパール・タルー族の家族ゲーム」  
「未来の食卓」
- ・町田市立真光寺中学校(7/15).....「ラオスってどんな国？」
- ・いそご多文化共生ラウンジ(8/17)....夏休み企画「知ってる?ネパール」  
横浜市の国際交流の場であるラウンジで、地球の木として初めての講座を実施しました。小学3~6年生の子どもたちが対象で大人も含めて多くの参加があり、大変好評を得ました。



いそご多文化共生ラウンジ

# 多文化共生の地域づくり

県内でも増えている外国籍の人たち。彼らが日本で暮らすうえで問題となっている制度の壁やこころの壁などを、同じ地域に住む人たちが理解し、彼らの人権が守られ、豊かな文化交流が出来る地域社会づくりを目指しています。

- ・(特非)かながわネパール人コミュニティが実施しようとしている母語教室をどのようにサポートできるかを協議しました。
- ・神奈川県内朝鮮中高級学校の「文化交流祭」を見学し、生徒たちの学校での学びの一端を知る機会となりました。
- ・多文化共生メールマガジン「Colorful World」(5~13号)を発行し、県内のイベントや関連書籍等の紹介をしました。
- ・あーすフェスタかながわ2023(12/3)  
あーすフェスタかながわ2023のワークショップ「世界のことばであいさつしよう!」の中の「ネパール語での挨拶を覚えよう。ネパール文字で名前を書いてみよう」を地球の木が企画、実施しました。



あーすフェスタかながわ2023

## 交易販売事業

地球の木では、生産者の自立を助けるため、また、クラフト品(手工芸)を通して、生産者や生産地の情報を伝えるため、クラフト販売を行っています。

### ■販売

福祉クラブ生協での共同購入(5月)、生活クラブ生協での共同購入(2月)、ことぶき協働センターでの委託販売(4月)を行いました。また、生活クラブ生協デポーでの展示会(緑園9/11~12、ほんもく10/16~17、つなしま12/11、たかつ1/15)や、イベントなどで販売を行いました。

### ■クラフト生産者

#### FAIR WEAVE(カンボジア)

家計を支えるために働く女性たちが経済的に自立できるように。手織り技術と天然染料での手染め技術を利用した、エシカルなテキスタイルブランドです。



#### ホアイホンセンター(ラオス)

ラオスの首都ビエンチャンにある「ホアイホンセンター」はラオスの天然染色手織りの伝統継承と女性の自立を目指して1998年にラオス人女性により設立。職業訓練センターの役割も果たし、ラオス全土の伝統織物技術の向上と継承に努めています。



#### シヴィライ村モン族(ラオス)

インドシナ戦争後、難民となり、1993年にシヴィライ村に帰還した女性たちの作品です。人口200人の村で、半数の女性が農作業の合間に刺



した刺繍は自立の糧となっています。モン族伝統の刺繍を手を抜かず、想いを込め制作しています。



#### タイルー族Coi(ラオス)

デザインのCoiはラオス語で「私」。現地の少数民族と共に、彼らの伝統的な手仕事に新たなエッセンスを加えたもの作りと伝統文化の継承を目標に活動



しています。Coiが商品の企画・デザインと継続して販売できる環境を整えることによって、生産者の収入向上や就労支援となるシステム作りを目指しています。



## 緊急支援事業

### トルコ・シリア大地震(2023年2月6日発生)

トルコ・シリア大地震への緊急募金を2022年度に引き続き、2023年5月末まで行いました。2023年度は14名、1団体から482,000円の寄付を受け、支援先の(特非)パルシックに送金しました。パルシックからの支援内容の報告を6月発行の会報誌に掲載するとともに、12月に受けた最終報告をホームページに公開しました。

## 広 報

- 会報誌を3回(6月、12月、3月)発行
- 地球の木として初めての年次報告書を9月に発行
- メールマガジン「Asian Wind」を毎月発行
- 新ホームページの2024年4月リリースへの準備



## 政策提言

(特非)メコン・ウォッチの日本政府への要請書「ODAと公的資金供与事業の停止」や、NGO非戦ネットの声明「政府安全保障能力強化支援(OSA)への異議申し立て」に賛同しました。

## ネットワーク

### — 地球の木は、以下の団体に参加しています —

#### ● 理事・委員として参加

横浜NGOネットワーク(理事)、かながわ生き生き市民基金(理事・評議員)、キララ賞選考委員会(選考委員)、「南北コリアと日本のともだち展」絵画展実行委員会(実行委員)、あーすフェスタかながわ実行委員会(実行委員・企画委員)、「東日本大震災復興支援まつり」実行委員会(実行委員)、東日本大震災復興・支援ネットワークかながわ(幹事)、遺贈寄付等相談・市民ネット(運営委員)

#### ● 会員として参加

国際協力NGOセンター(JANIC)、開発教育協会(DEAR)、APLA、メコン・ウォッチ、参加型システム研究所

#### ● その他の参加

NGO非戦ネット

### — ネットワーク団体と連携して学習会などを実施しました —

- NGO非戦ネットの今井高樹さんを講師に招き、(特非)WE21ジャパンと共催で「OSA緊急学習会」(8/8)
- 遺贈寄付等相談・市民ネットと連携し、(特非)WE21ジャパンと共催で「相続セミナー」(10/13)



## 皆さまのご支援

地球の木の活動は会費と寄付によって支えられています。  
温かい支援を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

地球の木は認定NPO法人です。「認定NPO法人」とは、NPO法人のうち、「公共性」、「公益性」、「健全性」、「透明性」について、「一定の基準を満たしている」と所轄庁(都道府県・政令市)が認めた法人です。  
地球の木へのご寄付は所得税や相続税の寄付金控除の対象となります。

### ■寄付

地球の木はいつでもご寄付を受け付けております。プログラムを指定してご寄付いただくこともできます。  
未使用切手、書き損じハガキ、金券、貴金属など、物品でのご寄付もお願いしています。

#### 2023年度寄付報告

##### ●寄付●

141の個人・団体の皆さまから**2,360,801円**のご寄付をいただきました。

— 内訳 —

ネパール.....	210,032円
ラオス(森と暮らし).....	114,592円
ラオス(図書).....	73,692円
トルコ・シリア大地震.....	482,000円
指定なし.....	1,480,485円

##### ●物品での支援●

238名の皆さまから、**633,911円**相当(額面金額)のご寄付をいただきました。

##### ●絵本の寄付●

23名の皆さまから、**192冊**の絵本のご寄付をいただきました。

### ■遺贈

地球の木への寄付には、一定の条件下で相続税がかかりません。これまでの人生で築かれた大切なご資産の中から、ご寄付いただくことで、あなたの思いを未来へと受け渡すことが出来ます。ご寄付の使い途に関するご希望など、まずはお気軽にご相談ください。

地球の木は生活クラブ生協運動グループでつくっている「遺贈寄付等相談・市民ネット」に参加しています。ここでは、司法書士や税理士、公認会計士などの専門家にご相談いただくことができます。



## 2023年度 活動日誌

### 4月

6日 ICT研修  
6日 ラオス図書貼付ボランティア  
8日 2022年度第10回定例理事会  
27日 2022年度期末監査

### 5月

11日 ラオス図書貼付ボランティア  
13日 2022年度第11回定例理事会  
25日 ラオス図書貼付ボランティア  
27日 第24回通常総会  
27日 ネパール現地訪問報告会

### 6月

8日 ラオス図書貼付ボランティア  
10日 出前講座(鎌倉女学院高等学校)  
15日 会報誌93号発行  
17日 2023年度第1回定例理事会

### 7月

4日 ラオス図書貼付ボランティア  
15日 出前講座(町田市立真光寺中学校)  
15日 2023年度第2回定例理事会  
20日 ラオスプログラム「JVCラオスプロジェクト報告会」

### 8月

8日 緊急学習会『『OSA』について考えよう！』  
10日 ラオス図書貼付ボランティア  
17日 出前講座(いそご多文化共生ラウンジ)  
24日 2023年度第3回定例理事会  
29日 「もったいない」ボランティアデー

### 9月

5日 ラオス図書貼付ボランティア  
11日～12日 デポー展示会(緑園)  
23日 2023年度第4回定例理事会  
25日 2022年度年次報告書発行  
30日 地球の木講座2023「内山節さんと考える森と共にある社会」

### 10月

1日 多文化フェア@なかやま  
2日 クラフト学習会  
12日 ラオス図書貼付ボランティア  
13日 相続セミナー(遺贈学習会)  
16日～17日 デポー展示会(ほんもく)  
21日 2023年度第5回定例理事会  
25日 ロシラハールを読む会

### 11月

3日 ラオス図書貼付ボランティア  
3日 フェリス女学院大学 大学祭  
4日 オルタ館フェスタ  
5日 鎌倉国際交流フェスティバル  
15日 ラオス図書貼付ボランティア @フリースクールここだね  
17日 2023年度中間監査  
18日 東日本大震災復興まつり  
23日 ラオス図書貼付ボランティア  
24日 2023年度第6回定例理事会  
26日 ひらつか市民活動まつり  
30日 ロシラハールを読む会

### 12月

1日 会報誌94号発行  
3日 あーすフェスタかながわ2023  
10日 安井清子さんお話し会～本とラオスの子どもたち～  
11日 デポー展示会(つなしま)  
14日 ラオス図書貼付ボランティア  
16日 2023年度第7回定例理事会

### 1月

12日 ラオス図書貼付ボランティア  
13日 2023年度第8回定例理事会  
15日 デポー展示会(たかつ)  
18日 ラオス図書貼付ボランティア@明治学院大学  
30日 ラオス図書貼付ボランティア

### 2月

1日～10日 ネパール現地訪問  
8日 ラオス図書貼付ボランティア  
17日 SDGs多文化CITYよこはまフォーラム  
23日 地球の木学習会「森に学ぶ～新治市民の森を歩く～」  
23日 2023年度第9回定例理事会

### 3月

9日 2023年度第1回臨時理事会  
14日 ラオス図書貼付ボランティア  
15日 会報誌95号発行  
30日 2023年度第10回定例理事会

### 理事・監事・顧問(2023年度)

#### 理事

磯野昌子(理事長) 勝田文隆  
田中浩平(副理事長) サブコタ・ドルラズ  
大嶋朝香(事務局長) 中野真理子

乳井京子  
沼田由美子  
山田孝志

#### 監事

飯田信子  
菅沼彰宏  
竹内剛史

#### 顧問

清水俊弘 山西優二  
丸谷士都子 横川芳江

# 地球の木では会員・ボランティアを募集しています

地球の木は、会員の皆さまのサポート、市民のボランタリーな参加により、運営されています。  
会員、ボランティアの皆さまから多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、  
心より感謝申し上げます。

## 会 員

- 正会員 ..... 6,000円
- サポート会員 ..... 6,000円
- 法人会員..... 一口10,000円

※正会員は総会に出席し、地球の木の運営に参加することができます。

※正会員、サポート会員とも、学生会員の年会費は3,000円です。

入会について、詳しくはホームページをご覧ください。

## ボランティア

地球の木の各事業は、ボランティアチームによって運営されています。各事業チームへの参加をはじめ、事務作業の補助、寄付品の整理、広報物の発送などにご協力いただくボランティアを募集しております。

また、広報物の作成など、プロボノの皆さまのご協力もお待ちしております。

ボランティアについて、お気軽に地球の木事務局にお問い合わせください。

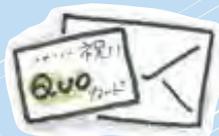
## もったいないを掘り起こそう

### 切手、はがき、貴金属などをご寄付ください！

おうちの中で眠っている書き損じはがき、未使用切手、金券、貴金属などを地球の木にお送りください。国際協力に役立ってます。



ギフト券・商品券  
図書券・図書カード



QUOカード  
未使用テレフォンカード



書き損じ  
未使用はがき



未使用切手



金、プラチナ、銀のアクセサリ  
など片方だけのもの、  
壊れたものでもOKです！



特定非営利活動法人

## 地球の木

地球の木は1991年に設立され、ラオス・フィリピン・カンボジア・ネパールで社会的に困難な状況にある人々への支援を行ってきた市民活動団体です。国内では、地域や学校での社会教育活動などを行っています。

## 地球の木2023年度年次報告書

- 発行 特定非営利活動法人 地球の木  
〒231-0032 横浜市中区不老町1-3-3フェニックス関内2F  
TEL 045-228-1575/FAX 045-228-1578  
E-Mail office@ngo-earthtree.org  
ホームページ <https://ngo-earthtree.org/>  
Facebook <http://www.facebook.com/chikyunoki>
- 発行責任者 磯野昌子 ■編集 会報作成チーム・事務局
- 発行日 2024年9月20日

